

# 企業見聞録 VOL.1

のどかな田園風景が広がる松野地区。  
その一角に、どど〜んと構える大きな建物。  
今年創業100周年を迎える「TOTO」のグループ会社、  
「TOTO プラテクノ」の勝浦工場である。  
実は、この工場で活躍する「人財」たちは、  
レストルームで使いやすさや美を演出する影の立役者。  
驚くべき「匠の技を持つ職人集団」が勝浦に存在した!



電動ブラシでカウンター表面のわずかな歪みを修正していく若手職人の直川さん。「入社して三ヶ月程うまく馴染めなかったんですが、先輩にアドバイスをいただいてできるようになって。やりがいを感じてきましたね」と入社当時のことを笑いながら振り返った

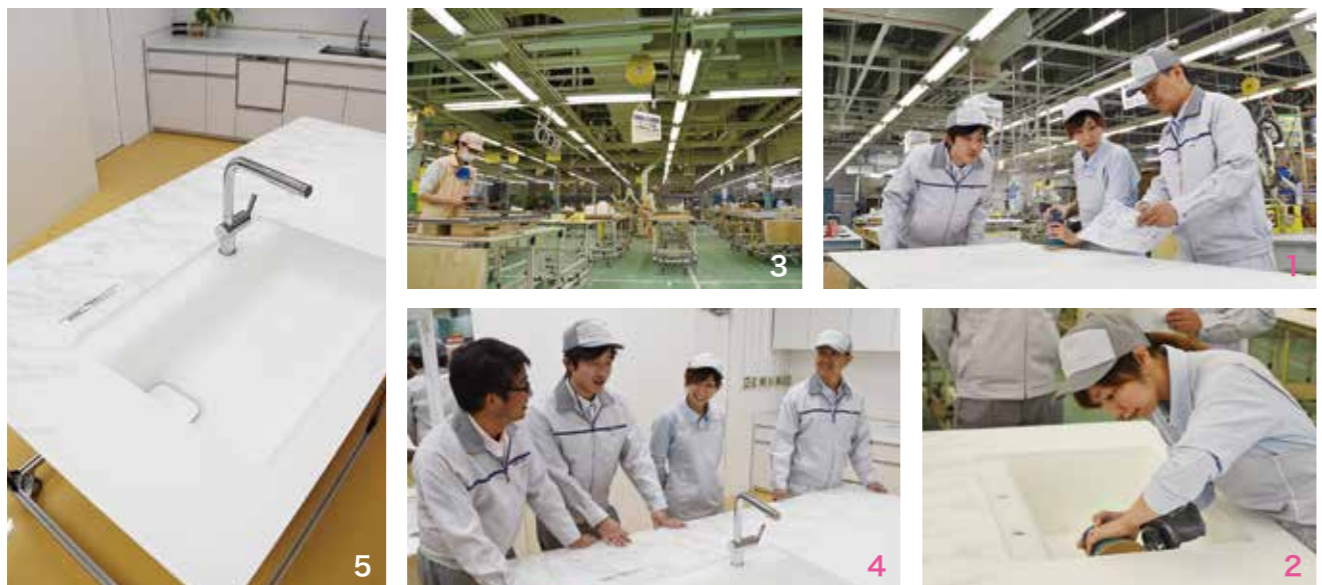


カウンター表面の仕上げに欠かせない電動ブラシ。このブラシで少しずつ、ほんの少しずつ研磨し、美しい面を生み出していく

続である。カウンターは基本、オーダーメイド。福祉施設から車椅子の方も使いやすいユニバーサル仕様のカウンターを受注することもあれば、いつそ美の追求が求められる美術館からのオーダーもある。ミリ単位で製品管理するのはもちろん、素材の組み合わせデータは企業秘密ともなる智の結晶である。

そして、仕上げには「職人の手」が必要だ。素人目には綺麗に見えるカウンター表面。だが、職人の直川加奈子さんは「色、ツヤ、ムラを見て、そして手で触ると歪みが分かります」ときっぱり。電動ブラシを使い、わずかな厚みを修正する。広いカウンター全体を意識しながらの局所的な調整。気の遠くなるような作業である。さらに「最終チェックには資格を持ったスタッフが手で触り確認します」と検査は何段階にも及ぶ。田中さんは「意匠性が大事」と強調したうえで、最終的な判断基準は「見苦しいものは不可」とのこと。寸法検査のみならず、「デザインは流行がある。全てをオートメーション化するとそれに追いつかない」と、人の感覚による官能検査にも妥協はない。

だからこそ人材育成に力が入る。「うちでは人財」と呼びます。後継者を育て、技術を継承しなければなりません。その姿勢が地元雇用を積極的にさせる。何を隠そう、直川さんも勝浦の人である。「今年から洗面台に異動になったんです。まだなかなかうまくはできませんが、目指す先輩がいますので、負けないように頑張りたいです」と抱負を語る直川さん。そんな輝く「人財」たちを、田中さんはこう表現する。「匠の技を持つ職人集団」と。



1) ベテランと後輩とのコミュニケーションは日常風景だ 2) 磨き作業中の直川さん 3) 工場内の様子。研磨だけでなく設計や素材の接着など、各所に匠の技が光る 4) 完成後、田中さん(左端)を囲んで談笑中 5) プラテクノ自慢のクリスタルカウンター。リモデルフェアでは一般の方も実際に触って品質をたしかめることができる



## 【TOTO プラテクノ株式会社(勝浦工場)】

**所在地** 勝浦市松野字蓮ヶ台 975-2 (本社は福岡県豊前市)  
**創業** 1973年創業。1990年、勝浦工場操業開始。なお、TOTOグループ本社は今年創業100周年!!  
**主な事業内容** マーブライト(人工大理石)カウンターやクリスタルカウンターの設計、加工製作。システムキッチンの加工製作。各カウンターは駅の洗面所や、美術館やホテル、百貨店のパウダールームの洗面カウンターとして使われている  
**従業員** 98人(プラテクノ全体では746人)  
**イベント** 5月27日(土)にリモデルフェアを開催  
**☎** 0470-77-1111 <http://tpt.toto-group.jp>

### 人財たちは「匠の技を持つ職人集団」

なぜこんなところにTOTOが!?

県道沿いに立つ看板を目にした人も多いだろう。TOTOのグループ会社「TOTOプラテクノ」は、洗面所などで使われる人工大理石カウンターの製造を主に行っている。一方で、製品の受注はTOTO本体の販売部門が、蛇口の製造は同じグループ会社の「TOTOアクアテクノ」が担当。得意分野ごとに業務を分担し、グループの強みを生かしている。

国内に4箇所あるプラテクノの工場のうち、勝浦工場は東日本向けの製品を一手に引き受けている。「本社のある福岡に工場があると納期に間に合わない。勝浦工場のミッションは納期を守ること」と語る、工場長の田中達也さん。首都圏のニーズに応えるために、勝浦は絶妙な立地にあるのだ。そのように、勝浦工場が重要な意味を持つため、本社からスタッフを駆けつけることも多い。余談だが、九州のスタッフの密かな楽しみは、「海の幸や勝浦タンタンメンを食し、市内の温泉を満喫すること」だという。